

学校法人 聖ヶ丘学園 八幡橋幼稚園

2025年度（令和7年）自己評価結果公表シート

八幡橋幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2025年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：職員12名
- (2) 実施日：2025年1月10日～2026年1月31日
- (3) 実施方法：職員全体会議において、職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：明るく・素直に・のびのびと主体的に過ごす中で豊かに生きるための基礎力が身につくようにします。また、「非認知能力」「主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング）」を重視します。

教育目標：健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何ごとにも好奇心を持って意欲的に取り組む

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2025年度の教育及び保育の内容に関する全体的な計画を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、少子化の現状を意識した取り組みを踏まえ、職員全体で園の運営、教育活動、学校安全計画について理解を深め、より良い園運営につなげていきたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	新年度開始前に教育目標・教育方針・教育課程・指導計画を職員会議で確認し、共通理解のもと教育活動に取り組んでいる。学期ごとにカリキュラムの見直しを行い、子どもの主体性を大切にされた保育計画を立てている。教育方針「明るく・素直に・のびのびと」教育目標“健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何事にも好奇心を持って意欲的に取り組む”を基本とし、一人ひとりの個性を尊重し、「子ども主体・教師主体」の教育活動を行っている。

<p>II 教育課程 ・指導計画</p>	<p>幼稚園教育要領を基本とし、本園の教育目標・教育方針に基づいた教育課程を編成し、指導計画を作成している。指導計画は「幼稚園に於いて育みたい資質・能力の3本の柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置き、新年度開始前に、前年度の保育の振り返りを行い、学年の発達の特性や子どもたちの興味・関心を踏まえ学期ごとに指導計画を作成している。</p> <p>学期ごとにカリキュラムを作成し、月々のねらいを意識した保育を行うとともに、計画にとらわれすぎず、その時々の子どもたちの様子や成長に合わせて柔軟に教育活動を展開している。</p> <p>また、今年度も「子どものやりたいことを実現する保育」を展開するために、子どもの意見や発想を取り入れながら、子どもの思いに寄り添い、保育内容を一緒に考え、活動を進めている。園の伝統を大切にしつつ、子ども一人ひとりの育ちに合わせた活動を工夫し、主体的な学びにつながる教育活動を行っている。お泊り保育、園外保育、運動会、おゆうぎ会の活動内容も各学年で子どもたちと話し合い、意見を取り入れ工夫している。</p>
<p>III 教育環境</p>	<p>子どもたちが主体的に活動できる環境づくりを大切にし、園内全体を活用した保育環境の整備に努めている。保育室だけでなく、廊下や階段なども遊びの場として活用し、子どもたちが園内を自由に行き来しながら好きな遊びを見つけ、継続して遊び込める環境を整えている。また、学年を越えて自然に関わり合う中で、異年齢の交流が生まれる環境となっている。</p> <p>安全面については、遊具や教具の使用状況を職員間で共有し、危険がないよう確認しながら改善に努めている。子どもたち自身も安全に遊べるよう考えながら行動する姿が見られる。</p> <p>保育室には廃材や多様な素材、教材などを子どもたちが自由に取り出せるよう配置し、試行錯誤しながら遊びを発展させていける環境構成に努めている。子どもたちの動きや興味、関心、言動に目を向けながら環境を整えるとともに、職員同士が話し合いながら教育活動の充実を図っている。</p> <p>子どもたちの遊びが継続できよう、季節に合った環境づくりとしてコーナーあそびを設けて個別の対応も丁寧に関わっている。 (毛糸からげ、ろうそく作り、編み物など)</p> <p>保育室や園内の装飾は子どもたちの作品を飾り大切にしている。 また、園庭で焼き芋パーティーを行うため、年長児が消防署に“火気使用に関する依頼書”を持参し安全面に配慮して行事を行った。</p>
<p>IV 教育の内容・方法</p>	<p>教育課程を基に教育内容や活動を定め、身近なものに興味、関心を持って、何ごとにも自主的に取り組めるように支援している。5領域のねらいや内容を職員で共有し、保育の質の向上に努めている。</p> <p>子どもたちの興味や関心を大切にしながら、身近な自然や生き物との関わりを通じた教育活動を行っている。園庭では虫や植物に触れる機会が多く、見つ</p>

	<p>けた虫を飼育することで、命を大切にすることや大切に育てるかを考える機会になっている。</p> <p>また、各クラスで野菜や花を育て、その世話をしたり収穫した野菜を調理したりするなど、生活や遊びの中で自然と関わる体験も大切にしている。</p> <p>園庭で育てたさつまいもについては、苗の購入から栽培、収穫、食べ方の工夫まで子どもたちと話し合いながら活動を進めることで、主体的に考え、試行錯誤する経験につながった。</p> <p>芋のつるを使ったクリスマスリース作りや藍の葉のたたき染めなど自然の素材を活かした制作活動を行い「なかよしバザー」で子どもたちの作品を販売した。周りの人に喜ばれる経験を通して創作の意欲にもつながっている。また、自然の素材（羊毛100%の毛糸など）を使用し、遊びを通していろいろなことを経験し学べるよう小さい時から本物に触れ感性の育ちを大切にしている。</p> <p>描画や制作など、一斉に行うことにこだわらず、一人ひとりの子どもの“やってみよう”という気持ちを大切にに関わり、活動が楽しめるようにした。</p>
<p>V 教師の役割 ・資質向上</p>	<p>職員は子ども一人ひとりを丁寧に観察し、その育ちや思いに寄り添いながら関わることを大切にしている。子どもの姿の中で気になる点や成長の様子については職員間で共有し、話し合いを重ねながら保育を進めている。そうした子どもとのより良い関係性を作ることで保護者の信頼を得ることができている。</p> <p>保護者との関わりにおいても、日頃から積極的にコミュニケーションを図り、「傾聴」と「共感」を大切にしながら信頼関係の構築に努めている。</p> <p>今年度も研修計画に基づき、キャリアアップ研修と経験年数に応じた研修に参加し各職員が自己研鑽に努めている。また、保育実践研修や公開保育に参加することで他園の取り組みを学び、あらためて自園の強みや課題について職員間で共通理解することができた。さらに、研修会への参加などを通して専門性を高め、学んだ内容を保育に活かすよう心掛けている。</p>
<p>VI 子育て支援</p>	<p>未就園児や地域の親子を対象とした子育て支援として園庭開放「ようちえんであそぼう」を年間を通して初めて実施した。親子での触れ合い遊びやわらべうた遊びを通して、幼稚園の生活や遊びを体験できる機会となった。</p> <p>園庭開放を継続的に実施することで保護者同士の交流の場ともなり、子育てや入園に関する相談にも随時応じることで、入園前の不安や悩みに寄り添うことができた。</p> <p>また、地域の子育て支援施設や保育園と連携し園に遊びに来てもらうことで幼稚園の教育活動を知ってもらう機会になった。</p> <p>運動会にも未就園児の親子を招待し、園児たちの様子を見てもらうこともできた。引き続き地域の子育て支援施設と連携し、幼稚園入園についての相談会や園庭開放の回数を増やしていきたい。</p> <p>インクルーシブ教育については療育センターの方に巡回指導に来てもらい</p>

	<p>良好な関係性を築き、子ども一人ひとりの育ちを大切に開くように努めている。また、区の育児相談などの専門機関とも連携し、必要に応じて紹介するなど保護者支援も行っている。</p> <p>在園児の保護者からの相談については、各家庭の実態を踏まえ、個別面談を行い、気持ちを受け止め親身に対応している。</p> <p>園外の保護者に対しては主幹教諭・園長が窓口となり随時、相談内容に応じた支援をしている。</p> <p>幼稚園や公共の施設を利用した行事等での親子の立ち振る舞いや道徳性については、保護者会でしっかりと伝えていきたい。</p>
<p>VII 地域住民や関係機関との連携</p>	<p>毎年恒例の警察署主催の交通安全教室に参加し、交通ルールについての知識を深め、交通安全祈願の七夕の飾り付けにも参加しパトロールカーや白バイに乗車させてもらった。市電保存館へは七夕飾りを展示してもらい見学にも行き交流を深めた。</p> <p>また、地域の特別養護老人ホームのクリスマス訪問に伺い、施設の方、おじいさん、おばあさんとの交流を大切にしている。</p> <p>焼き芋や餅つきの行事では地域の方々の理解と協力を得ながら実施することができた。日頃から地域社会の中で子どもたちが温かく見守られながら育つ環境が整っている。</p> <p>今年度もなかよしバザーを開催し、卒園生、地域の皆様、次年度入園の親子も遊びに来ていただき、地域との交流や繋がりを大切にしている。</p> <p>幼保小連携については根岸小学校のスタートカリキュラムに職員が参加し絵本の読み聞かせをした。また、就学に向けて各小学校の先生が来園し、子どもの様子を見ていただき、子どもたち一人ひとりの個性や育ちを踏まえた連携を大切にしている。</p> <p>連携先の磯子小学校、根岸小学校、滝頭小学校と交流する機会を持ち、学校探検や体操、生活の授業に参加させてもらった。子どもたちは交流を通して、就学に向けて安心感や期待感を持つ姿が見られた。</p> <p>また、今年度は根岸小学校の一年生職員研修に職員が招かれ「幼保小の架け橋期の教育の充実」について職員間で共通理解を深めることができ、より良い関係性を築くことができた。</p> <p>小規模保育施設との連携に関しては、2歳児を園に招き、園庭で一緒に体操や泥遊びをして交流を持つことができた。</p>
<p>VIII 運営管理</p>	<p>全職員が就業規則などの規約を確認し、守秘義務を守り、園児や保護者の個人情報取り扱いには十分配慮しながら職務にあたっている。</p> <p>聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして業務の効率化と改善に向け、人事労務、財務等の面から分析を行っている。</p> <p>運営においては、安全で安心できる保育環境を維持するため、毎月、様々</p>

	<p>な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めた。</p> <p>危機管理マニュアルを策定し事故等を防止する体制を整えている。</p> <p>ヒヤリハットの報告については記録を作成し、職員が確認できるようファイリングすることで、事故の未然防止に努めている。</p> <p>防災対策として、防災グッズの点検や補充を行い、期限切れがないようローリングストックを心がけている。また、避難経路の確認や防災リュックの点検などを行い、災害へ、備えている。</p> <p>感染症対策についても、流行時には玩具や室内の消毒を徹底するなど衛生管理に努め、安全な保育環境を維持できるよう取り組んでいる。</p>
--	--

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>本年度も園の教育目標及び教育方針に基づき教育活動を行い、当園の自己評価は保育の質の向上を目指すために、子どもの育ちや学びの姿を語り合い、開かれた同僚性の形成につながることを目的としている。自己評価を通して園の教育活動を振り返り、一人ひとりの評価をもとに教育活動の成果や課題を共有し、より良い保育の実践につなげることができた。</p> <p>本園では「明るく・素直に・のびのびと」を教育方針とし、子ども一人ひとりの個性を大切に保育を行っている。自然体験や食育、造形活動などの体験を通して、子どもたちが自ら考え主体的に活動する姿が見られた。</p> <p>全職員が「子ども主体・教師主体」の教育を目指し、安全、安心な環境の整備、活動の充実等「子どものやりたいことを実現できるように子どもの声に耳を傾け、意見を受け止め、一緒に考え工夫し、職員間で子ども理解を深めたことは評価できる。</p> <p>また、未就園児活動や地域との交流を通して地域に開かれた幼稚園としての役割も果たしている。以上のことから、本年度の学校評価の具体的な目標や計画については概ね達成されていると判断し、総合評価は A とする。</p> <p>幼稚園として、質の高い保育の維持・向上のためには、自己評価が不可欠である。そのためには今後も個々が行った自己評価や結果の振り返りをもとに意識を持って活用していきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	<p>幼稚園教育要領に基づき、子どもたちの資質、能力にあった計画を立て、今を大切に、何をやりたいのかを即座に察知し柔軟な対応により、意欲的なあそびを展開していかれるように職員同士で共有を図っていく。また、配慮の必要な子どもに対しては個々の実態を把握し、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配</p>

	<p>慮していき、かつ個別の支援計画を作成し活用することに引き続き努める。業務の効率化を図るため、ICTを導入し、指導計画作成に取り組んでいく。今年度は制作活動の時間が十分に確保できなかった点もあり、今後は活動内容を計画的に取り入れ教育課程に基づいた保育の充実を図る必要がある。</p>
保育環境の充実	<p>子ども主体の保育を大切に一人ひとりの意欲や探求を深められるように継続した遊びが行える環境づくりを今後も大切に設定していく。</p> <p>また、園庭の環境整備については全身運動を促すための環境について引き続きの検討事案としていく。</p>
安定的な園児募集	<p>母親の社会進出が増えたことにより保育園希望も増えていることを鑑み、幼稚園入園について子ども家庭支援課や子育て拠点と連携をして地域へのPR活動をしていく。また、引き続き、園庭開放を定期的で開催し幼稚園の魅力や楽しさを地域に伝えていく取り組みを進めていく。</p>
安全管理体制の強化	<p>保育環境や設備について継続的に点検を行い、安全管理体制の強化を図っていく。自然災害や火災等に対して実際の避難をイメージして訓練を毎月行い 振り返る。また、バス乗車時の安全管理、避難誘導についても全職員、統一の意識を持てるようにする。</p> <p>また、昨年、行うことができなかった不審者対応訓練や消火訓練について命を守る行動を身につけるため、警察や消防関係者と連携していきたい。</p> <p>園舎施設全体の各箇所における安全点検を担当者中心に定期的に行う。園内の教具、備品についても同様の徹底を行う。</p> <p>引き続き、様々な感染症拡大防止の対策は継続し衛生的な環境構築に努める。</p> <p>一方で、幼稚園の預かり保育など保育時間が長くなる中で、非常勤職員から情報共有の機会を充実させてほしいという意見が出ている。</p> <p>今後は会議や話し合いの機会を工夫し、子どもの育ちや保育内容、研修内容、ヒヤリハット事例などについて職員間で共有し、共通理解のもと安心して保育に取り組める体制作りを進めていく。</p> <p>引き続き、幼稚園の門や扉、職員ロッカー入り口の施錠管理の徹底など、防犯意識の向上と環境整備に取り組んでいく。</p>
教職員の資質向上	<p>職員は自己研鑽や幼稚園内での研修に加え、キャリアアップを目的とする体系化された外部研修の制度に合わせて、自らの職位や職務に合った能力を身につけるために研修を受け、保育の質の向上に努める。さらに園内での情報交換は常勤・非常勤の区別なく、誰もが共通の意識を持って全園児と向き合えるよう努める。</p>

研修内容を職員全体で共有する機会を設け、学びを共有しながら教職員の資質向上につなげていく。

一方で、学んだことについて資料提出も行っているが、非常勤職員も参加しての内部研修や報告会を設け情報共有する時間が持てないことが課題である。職員全体で共有する機会が十分ではないため、今後は研修報告の機会を設け、職員全体の資質向上につなげていく必要がある。

また、学園内の保育園と交流を持つことにより、乳児から幼児期における保育の連動性の大切さと発達の理解を深めていきたい。

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	A
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	A
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	幼児は集団生活や遊びを通して、いろいろなイメージや意見があることを知り、自分の気持ちに折り合いをつけて、相手の気持ちに気付けるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができています。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	A
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	A
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人でも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	